

1. 担当教員： 加藤千尋・遠藤明・佐々木長市 （連絡先：農学生命科学部総務）
2. タイトル： ホタテ貝殻資材を用いたリンゴ園の土壌改良
3. 概要： 県内のリンゴ園において、土壌の酸性化、排水不良など土壌の理化学性の低下や農薬由来重金属の蓄積が指摘されている。他方、県内ではホタテ貝殻の処理が進まず、活用方法が検討されている。貝殻の主成分は、アルカリ資材や土壌改良材として利用されることの多い炭酸カルシウムである。本研究では、実験や数値シミュレーションによって、貝殻資材の施用が土壌の理化学性に及ぼす影響を明らかにし、施用方法（時期や量など）の提案を目指す。これらを通し、廃棄貝殻の有効利用とリンゴ園土壌の改良、そして安全安心なリンゴの生産・収量や品質の維持向上の実現を目標とする。
4. 参考資料



写真1 室内ポット試験



写真2 土壌の理化学性分析